

東北電力株式会社安全衛生研修会に参加して

菅野 昭夫

私どものお付き合いの深い東北電力株式会社では、工事施工業者とともに『安全推進協議会』を設けて日ごろの安全管理の推進を行っています。

その一環として、毎年現場の安全衛生研修会が実施されています。

今回は下記の内容で実施されました。私も参加しましたので、参加体験を報告します。

日時 平成6年7月12日 7:30~17:00

場所 東北電力俣月山発電所建設現場（建設省月山ダム）

東北電力俣本導寺発電所

今回の安全衛生研修会場は、いずれも発電所の諸施設であって、朝日連峰の月山を隔て、西の「月山ダム（赤川水系、月山発電所）」、東の「寒河江ダム（寒河江川水系、本導寺発電所）」を取水口とする発電所である。

1. 月山発電所

現在建設中の、建設省月山ダムを取水口とするダム式発電所で、最大13m³/S取水、最大有効落差80mを利用して、最大8,800KWを発電する計画。

現在は、月山ダムの建設と歩調を合わせて、平成4年度に発電所立抗（ $\phi=15.0\text{m}$ 、 $H=27.0\text{m}$ ）、放水路立抗（ $5.7\times 4.5\text{m}\times$ 深さ19.5m）、水圧鉄管（31.0m）、放水路トンネル（延長116m）の掘削終了。平成5年度は、これらのコンクリート巻立て工事。研修施設は、発電所立抗でした。

月山ダム本体では、RCD工法+ベルトコンベアシステムで、スランプ0のコンクリートを打設中。

☆ 工事の安全管理対策

安全パトロールや作業現場における不安全要素の摘出、改善指導は勿論、発電所工事の特長を生かした安全管理に努力してきたとのことでした。

平成5年7月には、第一種無災害表彰を受賞している。

具体的には、

- ・総合開発事業の一環としての発電所工事であること、
- ・地域の特性、風土を把握した安全管理に努めること、
- ・周辺環境、既設設備の早期把握、

の3つをあげ、一例では、「ダム工事災害防止協議会」と相互参画し、安全パトロール等を行っている。

請負者現場長への意識の高揚については、マンネリ化にならない変化をもたせた活動を心がけ

- ・月一回、請負者合同の安全パトロールの実施、
- ・監督署の安全講話、
- ・事故例の検討会、
- ・安全衛生管理実技訓練、(消火訓練、救急法についての講師招聘実技)

などを実施してきている。

2. 本導寺発電所

建設省の寒河江ダムを取水口として、最大62.5m³/S取水、最大出力75,000KWを発電し、寒河江川右岸の放水口から水ヶ瀬ダム(調整池)に放流している。

発電所の水車は、「立軸フランシス式発電機」を採用しており、水車発電機一台の容量は、東北電力㈱最大である。平成2年6月に営業運転を開始し、電力は、15万Vの送電線で山形方面へ送り出している。発電所は無人であり、山形市にある技術センターから運転されている。

ここでは、スライドにより、発電所建設状況と東北一という、立軸フランシス式発電機を見学した。

いずれの発電所も、自然観を最優先にしているため、施設は地下式となっており、地上から見られる構造物はわずかなものであり、環境に対する配慮も十分に行われていることが感じられた。

今回は、技術の見学だけでなく、安全衛生管理の勉強にもなる研修会でした。



写真1. 研修状況、月山発電所立坑建設現場（月山発電所）

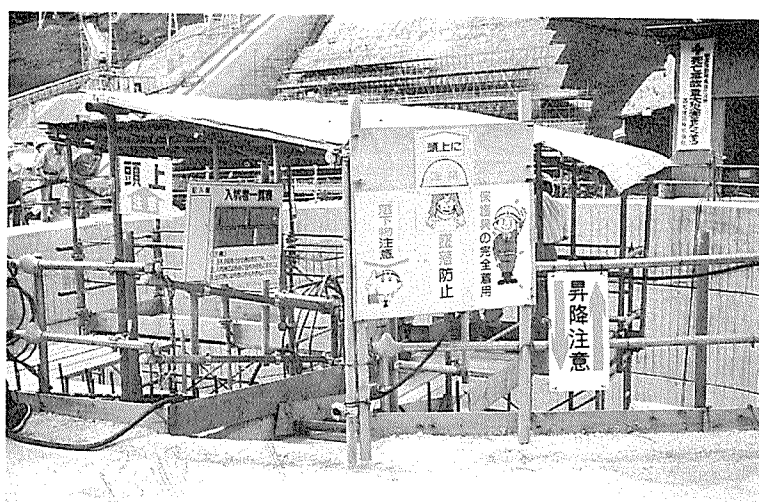


写真2. 発電所立坑入口、安全施設設置状況（月山発電所）

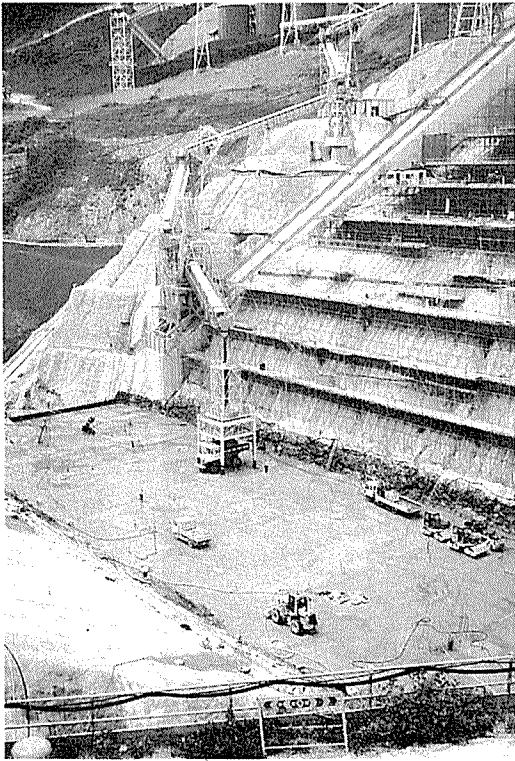


写真3. RCD工法+ベルトコンベアシステムによるスランプ0の生コン打設中(月山ダム)

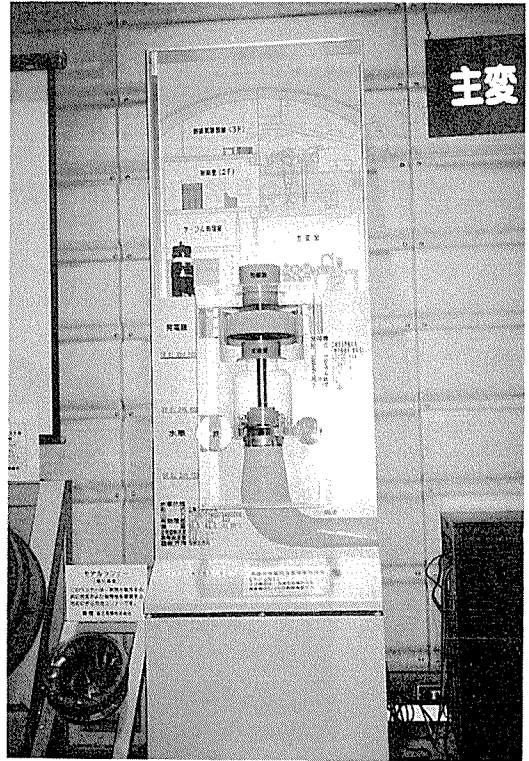


写真4. 立軸フランシス式発電機の模型(本導寺発電所)

(地質基礎工業㈱)

